

民主教育研究所からみなさんへ

2020.4.23 民研代表運営委員 梅原利夫
民研事務局長 鈴木敏則

民主教育研究所の研究活動に関わっておられる皆さん、民研の存在と活動に注目と関心を持っておられる皆さんに、緊急事態の渦中にあたり、民研から呼びかけます。

新型ウィルスや細菌類の発症と拡散は、歴史上、人類が何度も体験してきた災害です。その都度、人類は大きな犠牲を払いながら、次第に医療体制を構築し、感染拡大防止に努めてきました。しかし新種のウィルス類は絶えず生み出され、いわば生物や人間と「共存」しながら地球上で存在し続けています。人間社会がグローバル化した現代では、感染拡大も地球規模であり、対策は国際協力のなかで推進されていくべきものになっています。

こうした非常事態のもとでは、人間の生命と健康維持のため、日常生活の見直しと感染拡大防止のためにとられる生活・労働・学習・余暇分野での一定の制約は避けられません。

子ども・青年の生存と発達を目標とする教育分野においても、連日の対応策のなかで、深刻な困難や苦悩とともに真摯な努力が見られます。当事者の切実な声が無数に寄せられ、払われている多大な努力の交流も生まれています。そうした現実そのものが、私たちの当面する実践と研究の課題に他なりません。

「緊急事態宣言」下での子ども・青年・教職員と家庭・地域・学校というテーマについて、次のように当事者への権利保障の視点から教育のあり方を探究していきます。

- ①子どもの生存権・生活権・学習権の保障
- ②保護者の生活権・労働権保障と家庭・地域教育の実際
- ③教職員(教育関係職員)の労働権・生活権保障と教育実践の実際

私たちにはこの機会に、ウィルスや感染についての認識形成や対策をどのようにしたのか、人間の生命と健康を守る社会システムはいかにあるべきか、家庭や地域や学校での福祉と教育の役割とは何か、そもそも学校は何をする場かなどについて、根本に立ち返って考え続け、新しい課題に立ち向かっていくことが求められています。

民主教育研究所は、こうした課題意識を持って、今回の事態に対応して行きたいと考えます。残念なことです。3月以降に計画してきた多くの研究会や催しを中止せざるを得ませんでしたし、こうした事態は今後も続く可能性があるものと覚悟しています。

私たちは新たなコミュニケーション手段も駆使しながら、それぞれの条件下で、冷静にかつ意欲的に研究活動を進めてまいりましょう。人間の理性に信頼を寄せ、仲間の皆さんの期待に支えられながら、研究のあゆみが続けて行く所存です。

今後とも、変らぬご参集とご協力をお願いいたします。